

第3章

農山漁村体験活動の具体的な事例

3－1．武蔵野市立大野田小学校

農山漁村体験活動 概要

実施校	武蔵野市立大野田小学校
活動期間	平成30年9月20日～9月26日（6泊7日）
活動地域	長野県 飯山市 戸狩温泉スキー場（五荷地区・瀬木地区）
受入れ側	
宿泊形態	10軒の民宿に6泊（うち、1軒は本部宿）
参加した児童数	130名（小学5年生、4クラス）
活動の位置づけ	武蔵野市の特色ある教育（セカンドスクール）として実施
活動目的・ねらい	1. 長野県や飯山市の自然、文化、産業、オリンピック・パラリンピックについて興味・関心をもち、課題を見付けすんで調べようとする態度を養う。 2. 課題を解決するための方法を考えたり、調べたことや体験的な活動を通して自分の考えをもったりすることができるようにする。 3. 体験的な活動、他者とのコミュニケーションを通して、課題に沿って必要な情報を集め、取捨選択することができるようにする。 4. 自分たちの住んでいる地域と飯山市を比較し、その違いや共通点、よさに気づき、地域を大切にしようとする心情や態度を育てる。 5. 調べたことを伝える方法を目的に合わせて工夫し、分かりやすく伝えることができるようにする。 6. 飯山市の人々や友達など、人との関わりを通して、コミュニケーション能力や、自分の考えを広げたり深めたりする探究心を育てる。

農山漁村体験活動に関わる教育内容

事前学習

体験活動

事後学習

- 教科等の横断的な学習として位置づけ、飯山市の自然や伝統文化、農産業等について調べ、**児童自らが疑問や追究したいことを見出し、学習テーマを設定する。**

- 体験活動中の班決め、係の仕事の分担、よりよい生活を送るためのルール等を決める。
- 自己紹介カードを書き、事前に受入れ側へ送付する。

- 農業体験（稲刈り、脱穀、野菜収穫）
- 課題別学習（①自然（水と森）、②雪国の暮らし、③オリンピック）
- 郷土料理体験（笹寿司、おやき作り）
- トレッキング（とん平を登り、飯山全体の景色を知りながら自然に親しむ）

- 活動を振り返って、武蔵野市と飯山市を**比較し、それぞれの良さをまとめる。**
- PCのプレゼンテーションソフトを活用し、飯山観光大使として4年生と保護者に発表する。**
- 農業体験で、自分たちが刈ったお米を学校へ送っていただき、**家庭科の調理実習でおにぎりを作り食べる。**
- 受入れ側に、お礼の手紙を書いて送る。

農山漁村体験活動 当日のスケジュール（抜粋）

1日目（9月20日）		3日目（9月22日）		6日目（9月25日）	
時 間	行 程	時 間	行 程	時 間	行 程
07：00	出発	06：00	起床	06：00	起床
13：00	到着	09：00	課題別学習 ① 雪国のくらし ② 水と森 ③ オリンピック	09：00	宿別プログラム 郷土料理体験
13：30	開校式	13：30	農業体験 稲刈り・脱穀	13：00	宿別プログラム クラフト体験
15：00	はしづくり	19：00	今日のまとめ	16：00	お礼の手紙書き
16：00	民宿の方との語らい	21：00	消灯	18：00	夕食・お礼の会
20：00	星空観察				
21：00	消灯				



稲刈り体験



カヌー体験



笹寿司（郷土料理）



農作業体験

農山漁村体験活動に対する“教員の声”

- 事前学習・体験活動・事後学習と、連続した学びの機会を設けることで、**考える力（思考・判断力、問題解決力）や表現力が伸びた。**

- 農山漁村体験活動を通じて、**自分や友達の良さ、また飯山市の良さを発見することができ、児童の自己肯定感が高まった。**これは、その後の学校生活に活かしている。

- 6泊7日という長期宿泊だからこそ、友達、民宿の方々、また補助者との関わりが深くなり、人と人のつながり、人のよさを感じ、豊かなコミュニケーションの育成に繋がっている。**
- 自然体験、農業体験、課題別学習、郷土料理作りと、現地ならではの**“生きた”体験学習は、豊かな感性を育んでいると感じる。**



引率教員（担任）

3-2. 大田区立大森第六中学校

農山漁村体験活動 概要

実施校	大田区立大森第六中学校
活動期間	平成30年5月10日～5月12日（2泊3日）
活動地域	岩手県 花巻市
受入れ側	花巻グリーン・ツーリズム推進協議会
宿泊形態	34軒の民泊に1泊、1軒のホテルに1泊
参加した児童数	132名（中学3年生、4クラス）

活動の位置づけ	修学旅行として実施
活動目的・ねらい	ユネスコスクールの一員として持続可能な社会の担い手となるために 1. 農村民泊において人々とふれあい、心の交流を深める 2. 農作業体験を通じて、自然や食料生産の大切さを学ぶ 3. 東北地方の文化に触れ、異文化理解を深める 4. 3年間の集大成として団体行動を成功させる

農山漁村体験活動に関わる教育内容

事前学習

体験活動

事後学習

- 社会科の授業で、地理・歴史で東北地方の学習を深めた。 - 国語科の授業の中で、宮沢賢治の作品・方言・昔話を学び、宮沢賢治の生き方をとじて、東北地方の風土を知る機会となった。	- 農作業（稲作、果実栽培、酪農）を体験すると共に、工芸品づくり等も体験した。 - また、農家のお手伝いをして、郷土料理をいただいた。	- 体験活動の内容を振り返り、社会科で活動新聞を作成している。 - 国語科では、体験活動の内容を振り返り、俳句・俳文を作っている。実際に農家の人と話した言葉、感じたことが俳句や俳文となって表現された。
津波や地震の被害、防災の取組、及び復興の現状・原発事故を調べ、防災学習の一環として学習を深めた。	震災被災の語り部さんのお話を聞く。	語り部の話を聞いた内容を考察し論文形式に記録を残す。学習成果発表会で後輩に災害対策で必要なことを伝えた。

農山漁村体験活動 当日のスケジュール

1日目（5月10日）		2日目（5月11日）		3日目（5月12日）	
時 間	行 程	時 間	行 程	時 間	行 程
09：00	出発式	午 前 ～	農山漁村体験（民泊ごと）	06：00	起床
13：00	中尊寺を見学			07：00	支度・部屋清掃
16：00	入村式	16：00	離村式	09：00	盛岡手作り村 ✓ 伝統工芸づくり ✓ お土産購入
16：30 ～	民泊先へ移動 ✓ コミュニケーション ✓ 夕食・入浴 ✓ 就寝 等	17：30	ホテルチェックイン	12：00	わんこそば体験
		20：30	体験学習（震災語り部）	18：00	学校到着
		22：00	消灯		



農山漁村体験活動に対する“教員の声”

- 農家の方との交流は、日本の農耕文化を理解する良い機会となった。

- 語り部さんの話を聞くことで、防災学習の深い学びにつながっている。自助・共助・互助の大切さを強く感じる。

- 2年に1度、学校の文化祭に来ていただき、**受入れ側の農作物を販売する取組は、保護者も楽しみにしていることから、継続しています。**
- 受入れ側の地域全体で、**農家との関係**を大切にさせていただいており、都会育ちの本校児童にとって、**かけがえのない経験**となっています。



引率教員（担任）

3－3．横浜市立青葉台中学校

農山漁村体験活動 概要

実施校	横浜市立青葉台中学校
活動期間	平成30年5月16日～5月18日（2泊3日）
活動地域	長野県 長野市 戸隠越水周辺
受入れ側	
宿泊形態	4軒の民宿に2泊
参加した児童数	144名（中学2年生、4クラス）
活動の位置づけ	宿泊を伴う自然体験学習の一環として実施
活動目的・ねらい	1. 豊かな自然の中で行う様々な体験活動を通して、自然の恵みを肌で感じ、自然と共に生きる生活の知恵・伝統的な文化について学ぶ。 2. 宿泊を伴う行事を計画・実施していく過程で、集団の一員としての自覚を持ち、きまりを守り、主体的に行動する態度を養う。 3. 集団生活を通して、仲間と多くの時間を共有することにより、親睦を深め、思いやりの気持ちや互いに協力し合う態度を養う。

農山漁村体験活動に関わる教育内容

事前学習

体験活動

事後学習

- ・ 社会科の中で、日本の農産業（米の歴史・文化、等）について学ぶ。

- ・ 泥だらけになりながら、実際に田植えを体験する。
- ・ 普段食べている米が、どのように育てられているのか、身をもって学ぶ。

- ・ 自分たちが植えた米を受入先の農家が持参してくれるので、餅つき体験を実施して、食べる。

- ・ 自分たちで、活動中のルール決めや班分け等を行っている。
- ・ 班単位で、活動地域に関する調べ学習を行い、新聞等を作成している。

- ・ 2泊3日を仲間と過ごし、校舎では得られない経験や学びを共有する。
- ・ ルールを遵守して、主体的に行動する。

体験活動にからめた事後学習は特に行わず（餅つき体験以外）

農山漁村体験活動 当日のスケジュール

1日目（5月16日）		2日目（5月17日）		3日目（5月18日）	
時 間	行 程	時 間	行 程	時 間	行 程
07：00	出発	06：00	起床	06：00	起床
12：30	到着・昼食	09：00	登山	08：45	退村式
13：30	入村式	12：40	体験学習	09：00	班別の散策
15：00	田植え体験		① 魚つかみ ② そば打ち ③ おやき作り ④ 化石掘り		✓ 戸隠神社奥社、 ✓ 忍法資料館、等
18：30	バーベキュー	19：00	全体レク	12：00	バス出発
20：00	ナイトハイク	22：00	消灯	18：00	学校到着
22：00	消灯				



農山漁村体験活動に対する“教員の声”

- 日本人の主食である「米」について、学校で学び、実際に植え、それを食すといった学習によって、**食べ物と生産者の関係について考えるように変化した**と感じる。

- 生徒同士、また生徒と教員が、お互いをよく知ることができたため、**協力・助け合い・認め合いの大切さを実感し、その後の学校生活にも良い影響を与えている。**

- 普段とは異なる自然の中に身を置くことで、生徒が伸び伸びと活動していた。田植え、ナイトハイク、登山等、活動の1つ1つが、児童にとっては新鮮な体験となり、自然の恵みを肌で感じていた。
- 今後も貴重な体験の機会として、農山漁村体験活動を継続していきたい。



引率教員（担任）

3－4．豊田市立浄水中学校

農山漁村体験活動 概要

実施校	豊田市立浄水中学校
活動期間	平成30年8月28日～8月31日（3泊4日）
活動地域	福井県小浜市田島区大浜・世久見地区
受入れ側	国立若狭湾青少年自然の家・若狭三方五湖観光組合
宿泊形態	青少年教育施設に2泊 世久見旅館に1泊
参加した児童数	181名（中学2年生、6クラス）
活動の位置づけ	自然教室として実施
活動目的・ねらい	1. 親元を離れた集団生活を通して、自分で判断し進んで行動することで、自分の行動に責任をもてる力を養う。 2. 集団生活を通して、互いに助け合い、優しくあたたかい人間関係をつくることで、豊かな人間性を養う。 3. 日頃支えてもらっている人への感謝の気持ちを育む。 4. 漁村の方との交流を通して、生き方を考える。

農山漁村体験活動に関わる教育内容

事前学習

体験活動

事後学習

- ・ 班の編成や活動内容の決定、ルールづくりを行う。
- ・ 学級スタンプの準備を通して、仲間との絆を深める。

- ・ 人とのかかわり方や自然とのかかわり方を学習し、社会性や人間性を育む。

【若狭湾青少年自然の家】

- ・ 砂浜レクリエーション
- ・ カッター訓練
- ・ 海、磯コース別活動（水泳、ボート類、磯釣り）
- ・ 漁り火のつどい
- ・ 学級スタンプ

【世久見旅館】

- ・ 漁業体験（養殖業、クルージング、干物作り、釣り）
- ・ 農業体験（稲刈り）
- ・ 漁師との語らい

- ・ 活動を振り返り、自分たちが**成長できたこと**や**今後の課題**を把握する。

- ・ 農業体験で**自分たちが刈ったお米**や漁業体験で作った**干物を自宅で調理する。**
- ・ 受入れ側に、お礼の手紙を書いて送る。
- ・ 文化祭で世久見観光組合と協力し、**海産物の模擬店を出店する。**

農山漁村体験活動 当日のスケジュール（抜粋）

1日目（8月28日）

時 間	行 程
09:00	出発
11:30	到着
13:00	はじまりのつどい
14:00	砂浜レクリエーション
17:00	入浴・夕食
19:00	スタンプ練習
22:00	消灯

2日目（8月29日）

時 間	行 程
06:00	起床
09:20	カッター訓練
13:30	海・磯 コース別活動
17:00	夕べのつどい
18:30	漁り火のつどい
22:00	消灯

3日目（8月30日）

時 間	行 程
06:00	起床
09:30	カッター退所
11:45	入村式
12:45	干物作り
13:30	漁業・農業体験
20:00	漁師との語らい
22:00	消灯

漁業体験



カッター訓練



農業体験



農山漁村体験活動に対する“教員の声”

- ・ 仲間、自然、現地の方とのふれ合いを通して**優しさや思いやりの心が育まれた。**
- ・ さまざまな活動を通して助け合いや協力することの大切さに気付き、学校生活へよい影響を与えた。

- ・ 漁業体験、農業体験から、**職業について学ぶとともに、食に対する感謝の気持ちが高まった。**
- ・ 学校生活では味わえない経験から**広い視野で物事を考えられるようになった。**

- ・ 集団生活、集団活動を通して、人間関係を深めたり規範意識を高めたりすることができる。
- ・ 現地の方とのふれあいで豊かなコミュニケーションが、自然とのふれあいで豊かな感性が育まれる。



引率教員（担任）

保護者



- ・ 体験を通して色々と考えさせられたようでよかった。
- ・ 普段体験できないような職業だったので、人生の選択肢の幅が増えてよかった。

3－5．東京都立練馬工業高等学校

農山漁村体験活動 概要

実施校	東京都立練馬工業高等学校
活動期間	平成29年5月25日～5月28日（3泊4日）
活動地域	北海道ニセコ・小樽地区
受入れ側	有限会社 Mulberry
宿泊形態	22軒の民泊に2泊、1軒のホテルに1泊
参加した生徒数	144名（高校3年生、5クラス）
活動の位置づけ	修学旅行として実施
活動目的・ねらい	1. 北海道という広大な大地と自然の中で、実際の農業、畜産業、漁業の仕事を体験することにより、自然環境の大切さを理解させ、自然と共存した職業に関わる生活の体験から、工業を含む幅広い職業観を育成する。 2. 一般家庭における少人数での民泊、実務体験を通じて、本校生徒の伸長目標である、コミュニケーション能力と適応能力を養成する。 3. アイヌ民族文化と歴史を現地で学び、多様な文化尊重の心を育む。

農山漁村体験活動に関わる教育内容

事前学習

体験活動

事後学習

・ 体験活動の内容を説明し、職業意識の向上を促す。	・ 機械化された農業・酪農・漁業に用いられている機器の操作を体験することで、近代的農業を体感する。	・ 近代的農業を体験したことで、職種選択指導時に、働くことへの意識や自主性が高まる。
・ 民泊受入家庭へ、自己紹介の手紙を事前送付し、コミュニケーションのきっかけとする。	・ 体験作業を通じて、民泊先とのコミュニケーションが増える。 ・ 作物や家畜等に実際に触れ、命の大切さを実感する。	・ 民泊受入家庭に、お礼の手紙を書くことで、感謝の気持ちを再確認する。
・ アイヌ文化講演会を実施し、日本の歴史への理解度を向上させる。	・ 実際に北海道の地で、3泊4日の体験活動を行う。	・ 北海道各地の地名や生活等に根差すアイヌ文化を振り返り、多様な文化を再確認する。

農山漁村体験活動 当日のスケジュール

1日目（5月25日）

時 間	行 程
07：45	出発
13：00	洞爺湖で昼食
15：00	民泊先で体験
18：00	夕食
19：00	自由時間
22：00	消灯

2日目（5月26日）

時 間	行 程
06：00	起床
08：00	民泊先で 就業体験 午前、午後で 2回を実施
19：00	自由時間
22：00	消灯

3日目（5月27日）

時 間	行 程
06：00	起床
07：30	移動
10：00	体験学習 ✓ ラフティング ✓ カヌー ✓ ソーセージ作り
13：00	ホテルへ移動
22：00	消灯



漁業体験



農業体験



カヌー体験

農山漁村体験活動に対する“教員の声”

- 農業・酪農・漁業体験を通じて、職業選択拡大と働くことへの意識が向上し、進路決定率が20%も高くなった。

- 生命尊重の意識が育まれると共に、自然の中で計画的に作業を行うための自主性や協調性、コミュニケーションの大切さを理解した。

- アイヌ文化を、地名や生活等から多面的に経験することによって、文化の多様性を改めて理解できた。

- ストレスの大きな都市生活で日々を生活している生徒達が、大自然の中での生活、温かい家庭、命の大切さ、命をいただく食の大切さを経験したことで、帰りのバスの生徒の顔が清々しく、行動面でも大きく成長したことに驚きました。



引率教員（担任）